２０２７年度（令和９年度）
東北大学法科大学院入学試験　一般選抜（前期）・法曹基礎課程特別選抜（開放型）
試験科目：刑事法（刑法）

【設問】
以下の【事例】に記載された事実が真実であることを前提にして、X及びYの罪責について論じなさい（特別法違反の罪は除く。）。

【事例】
1　X（男性・40歳・身長170ｃｍ・体重75ｋｇ）とY（男性・40歳・身長177ｃｍ・体重80ｋｇ）は、飲食店A（以下「A」という。）を共同で経営していた。XとYは、Aの設備等が老朽化したため、Aの改装費用として、Aの常連客であるV（男性・65歳・身長163ｃｍ・体重70ｋｇ）から500万円を借り受けたが、Aの業績が悪化し、弁済期日が過ぎても500万円をVに弁済することができなかった。2024年3月1日（以下「2024年3月」は省略する。）、Vから500万円の弁済を強く求められたXとYは、弁済の目途が立たないことから、Vを殺害して500万円の支払いを免れることを決意し、VをAに呼び出して睡眠薬を飲ませた後、眠り込んだVをY所有の普通乗用自動車（以下「Y車」という。）の後部トランクに乗せ、Aから約10ｋｍ離れた、夜間は人気のないB湖付近まで運び、VをB湖付近の崖からB湖に投げ入れて溺死させるという計画を立てた。なお、Vは、XとYに対して、個人として500万円を貸し付けたが、Vには親しい親族等がいなかったため、Vが死亡した場合、XとYは、誰からも500万円の返済を求められることはなくなる状況にあり、XとYも、そのことを認識していた。

2　5日午後10時頃、XとYは、上記計画を実行するために、Vに架電し、500万円の弁済について相談したいなどと告げて、VをAに呼び出した。同日午後10時30分頃、Aを訪れたVに対して、Xが睡眠薬入りのビールを提供したところ、Vは当該ビールに睡眠薬が入っていることに気付かなかったため、それを飲んだ。同日午後11時頃、Vは睡眠薬の影響で眠り込んだ。

Vが眠り込んだことを確認したXが、Yに対して、VをY車の後部トランクに乗せようと提案したところ、Yは、Xに対して、「その前にトイレに行ってくるわ。」と告げると、トイレに用を足しに行った。Yがトイレに向かった後、Xは、Vの上着の内ポケットに財布（以下「本件財布」という。）が入っているのを見つけた。本件財布の中に現金5万円が入っているのを確認したXは、それを自己の遊興費等に使用しようと考え、Yがトイレから戻ってくるまでの間に、本件財布から5万円を抜き取り、それを自己のズボンのポケットの中に入れた。YはXが本件財布から5万円を抜き取ったことに気付かなかった。

3　Yがトイレから戻ってくると、XとYは、眠っているVをY車の後部トランクに乗せた後、鍵をかけ、Vがそこから出られないようにした。その際、XとYは、睡眠薬の効果が切れて、Vが目を覚ましたとしても、Vが暴れたり、大声を出して助けを求めたりすることができないようにするために、Vの手足をロープで縛るとともに、Vの頭に黒いビニール袋を被せ、その袋の口を縛った。VをY車の後部トランクに乗せ終えたXとYは、Yが運転するY車でB湖に向かった。同日午後11時35分頃、B湖付近に到着したため、YはY車を停車させ、Xと二人でVをY車の後部トランクから引きずり出した。XとYは、VをB湖付近の崖まで運び、同所からVをB湖に投げ入れた。

4　10日午後3時頃、Vの死体が発見されたが、Vは被せられたビニール袋の口を縛られて換気を閉ざされたことにより、B湖に投げ入れられる前に、Y車の後部トランク内で窒息死していたことが判明した。なお、XとYは、Vの頭に被せたビニール袋の口を縛った際、それが原因でVが窒息死する可能性があるとは思ってもみなかった。

以上